

保育士給料の引上げ 定数改善を しまね保育連絡会が行政と懇談

2月20日、しまね保育連絡会（森山幸朗会長）が松江市と懇談しました。連絡会に参加する市内3園の園長、市から子ども子育て部の担当者が参加しました。



担当課と懇談する保育連絡会の皆さん

要望項目は▽職員定数の改善、▽保育施設職員の給料の引上げ、▽物価高騰への支援、▽子ども誰でも通園制度についてなどです。

職員定数の改善が行われる中、2025年度に用意されていた待望の1歳児クラスの改善、1才児6人につき保育士1人から「5人につき1人」への拡充について、国は3つの要件をつけてきました。3つの要件は①処遇改善等加算ⅡⅢの全てを取得、②ICT活用、③職員の平均経験年数10年以上、です。「土壇場になって対象をしぼるのか」「予算削減だ」と批判が湧き

あがっています。

参加者は「ICTではなく保育に必要なのは人の手」と配置基準の改善、公定価格の引上げを国にも求めてほしいと要望しました。

また、給食費の物価高騰分支援が、次年度から米の高騰分のみとなります。「保護者負担を抑えて給食の質を確保するのは本筋に大変」と話しました。「子ども誰でも通園制度」について国が全ての市町村で実施することを求めており、責任の所在が不明確であること、保育者の負担が増えるのに財政的な支援が減額されたことなどの課題について懇談しました。舟木健治、たちばなふみ両市議が同席しました

たちばなふみ市議を再び市政へ 事務所開き記念のつどい開催

2月16日、たちばなふみ後援会と八束の明日を考える会は松江市議選に向けて事務所開きをし、それを記念した「たちばなふみを囲む集い」を開催、85名が集いました。



会場いっぱいの参加者で合唱

ピアノ伴奏付きのフルート演奏会が始まり、たちばな市議が行っているSNSを紹介。その中から、YOUTUBE配信している動画を上映し、「拡散しましょう」とラインを使った拡散方法の説明をしました。

また、竹矢町、八雲町、東出雲町、島根町、美保関町、八束町などの各地域から、災害、火災などの時にたちばなふみ市議が一番に駆けつけ要望を聞き対応したこと、公民館や施設の廃止計画に対して住民の要望をもとに修正求めていること、女性、子育て、

介護にかかわる要望を聞き、実現してきたことなど13人の応援スピーチがありました。

たちばな市議が「お金の心配なく安心して子育てし、年をとれる、それが当たり前前の社会にしたい。そのため給食費の値上げに反対し無償化を訴え、国保料介護保険料の負担軽減などを訴えてきた。原発稼働について避難が心配だと言う市民の声を届けてきた。市民の困難解決に引き続きがんばりたい」と支援を訴えました。日本共産党島根県委員会を代表して尾村利成県議、向田聡東部地区委員長が挨拶しました。フィナーレは、市議選必勝の思いを込めて「大きな歌」の替え歌を合唱しました。

「あなたの声を届けます」

要求アンケート
2025 実施中



大平よしのぶ
元衆院議員



日本共産党は、昨年秋に行われた衆議院議員選挙の結果をうけて、多くの国民の声を聞こうと「要求アンケート」に取り組んでいます。松江市では4月に行われる市議会議員選挙の予定候補を中心に、多くの皆さんに要望を伺い、

政治に届けようと、対話を広げています。

3月1日、党中国ブロックの「春こいキャラバン」として大平よしのぶ衆院中国比例候補が来県し、たちばなふみ松江市議、佐野みどり市議予定候補と一緒に要求対話で暮らしと政治に春をとシールアンケートを使った宣伝に取り組みました。亀谷ゆう子参院鳥取・島根選挙区候補、尾村利成県議、後援会員なども参加、JR松江駅前など市内5カ所で約130人と対話しました。

公園で対話になった子ども連れの20代の女性は「子育てするにも、モノが高い。物価高を何とかしてほしい」と語りました。

商店街の広場で飲食イベントを開催していた男性は「物価高で人通りも少ない。消費税を引き下げてほしい」と話しました。

JR松江駅前では「給料が上がらず、日々の支払いが大変」（派遣社員）、2人連れの若者が「職場でパワハラがある。ジェンダー平等になってほしい」中学生も「最低賃金を上げて

ほしい」「義務教育の負担軽減のため、国がもっとお金を出すべき」、高校生は「広島のことを学校で勉強した。核兵器をなくしてほしい」、とシールを貼りながら話し、たちばな氏、佐野氏は党の政策を伝え、願いにこたえて政治に届けると語りました。



対話する たちばな市議



対話する 佐野予定候補